

PAR吸光光度法による

4-(2-Pyridylazo)resorcinol Absorptiometry

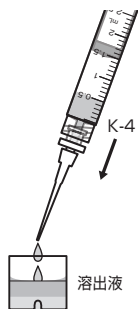
測定範囲 Pb 0.03~0.50 mg/L(ppm)

発色試薬 バックテスト® 鉛セット (型式:SPK-Pb)

測定時間 約12分(チューブに吸い込み後 3分)

測り方

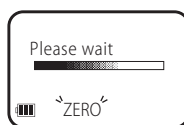
「バックテスト 鉛セット」の使用法に従い「5.溶出液の回収」まで行ないます。



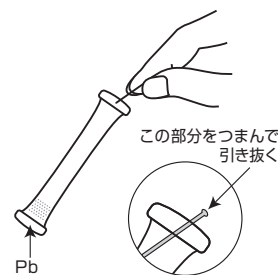
① 溶出液を専用カップに採ります。



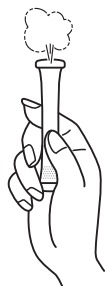
② 長押しで電源を入れ、専用カップのガイドが手前になるように測定部にセットします。



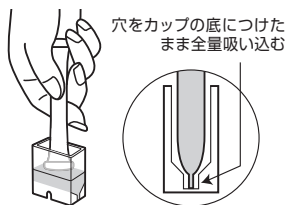
③ 0調ボタンを押します。ゼロ調整終了後、専用カップを取り出します。



④ チューブ先端のラインを引き抜きます。



⑤ 穴を上にして、指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を押し出します。



⑥ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、専用カップの検水を全量吸い込みます。

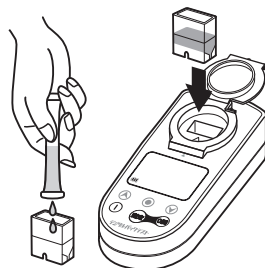


⑦ ⑥と同時に測定ボタンを押します。カウントダウンが始まります。



30回程度

⑧ 液がもれないように、橙色の塊がなくなるまで、チューブを30回程度かるく振り混ぜます。



⑨ すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻します。専用カップを測定部に再びセットし、静置します。



⑩ 3分後に測定値が表示されます。

特徴

この製品は、「パックテスト鉛セット」(型式 SPK-Pb)での分離濃縮操作により回収した溶出液中の鉛と、PAR(4-(2-ピリジルアゾ)レゾルシノール)が反応して生成する赤色錯体を定量するものです。

工場排水(一律排水基準 0.1mg/L)をはじめ、食器・おもちゃの食品衛生法溶出液中の鉛や、Sn-Ag-Cuの鉛フリーはんだの測定などに応用できます。

測定に関する注意

1. この方法では、「パックテスト鉛セット」の溶出液の測定を行いません。操作に関する注意は、「パックテスト鉛セット」に付属の使用法をご参照ください。
2. ゼロ調整に使用する専用カップと測定に使用する専用カップは同じものをご使用ください。
3. 測定範囲の上限値を超えた場合、上限値と「OVER」が交互に点滅し、下限値未満の場合、下限値と「UNDER」が交互に点滅します。
4. 検水中の鉛イオンの濃度が高いと考えられる場合、あるいは測定値が上限値以上であった場合は、測定範囲内に入るように検水を希釈し、「パックテスト鉛セット」で再度溶出液の回収まで行ない、測定してください。
5. 検水の温度は15℃～30℃で測定してください。
6. 水温が気温より極端に低い場合、専用カップに結露が生じて曇り、測定値が高くなります。
7. チューブ内の橙色の塊はできるだけ溶かしてください。無色の試薬は溶け残りますが、測定には影響ありません。
8. チューブから測定液を速やかに専用カップに戻してください。その際、試薬の溶け残りが舞ったり、気泡が生じたりしないよう静かに行ない、カウントダウン中は静置してください。
9. 試薬の溶け残りや気泡が専用カップ壁面に付着した場合は、専用カップを指ではじくなどして、できる限り取り除いてください。低濃度側では、誤差が大きくなりますので、特にご注意ください。
10. 専用カップの転倒、取り忘れ等で本体(特に測定部)に検水、測定液がこぼれないように十分注意してください。
11. 万一、こぼれた場合には、直ちに拭きとり、軽く水を含ませた柔らかい布で数回拭いてください。
測定値はカウントダウン後の自動表示だけでなく、手動でも得られます。詳細は別冊の『デジタルパックテスト取扱説明書14ページ』をご覧ください。
12. 専用カップがセットされていない時に表示される数値は無効です。
13. 標準色とチューブ内の発色とを目視で比色するパックテストとは、反応時間、測定範囲が異なります。
14. オートパワーオフは30分に設定されています。

専用カップについて

1. 専用カップはポリスチレンでできています。
2. 専用カップ(10個入り 型式:WAK-CC10)は別売しています。弊社までお問い合わせください。

「共存物質の影響」「試薬に関するお知らせ」は、「パックテスト 鉛セット」に付属の使用法をご覧ください。